

地域おこし協力隊 だより 11

本市では現在、10人の地域おこし協力隊が地域活性化のため、それぞれの活動に従事しています。今月は、その中から任期の最終年である3年目の活動を迎えている本田齊さんを紹介します。

ほんだ 本田 齊さん

生活支援コーディネーター



このお話を
のために

本田さんは、東京都でシステム開発の会社を経営していましたが、60歳の節目を機に退任を考え、令和2年9月、ゆかりのあった本市の地域おこし協力隊に着任しました。

現在、市社会福祉協議会に席を置き、生活支援コーディネーターとして、高齢の方が住み慣れた地域で自分らしく元気に生活を送ることができるよう、地域で行われる支え合い活動の発展・発信に携わっています。

そんな本田さんは、地域おこし協力隊としての任期を今年の8月に満了します。今月は、本田さんのこれまでの活動内容について、お話を伺いました。

「つながること」からスタート

着任からの二年間は、より多くの方と「つながること」を目的に、町内会の活動や地域で行われるサロンへの参加、高齢者宅への個別訪問などを積極的に行い、生活支援コーディネーターの存在を知ってもらうための活動に取り組みました。そのかいもあって、現在ではみなさんの方から困りごとの相談や地域活動に関する内容などについて気軽に相談してくれるようになり、「近所の○○さんが困っていたよ」など地域からの情報も届くようになりました。



みなさんから届いた相談に適切に対応するため、関係機関などからアドバイスをもらっています。民生委員や町内会長など、地域の事情に詳しい方からのアドバイスは大変参考になります。

映像で広げる地域の輪

市生活支援協議会では、令和2年度に旭区をモデル地区として困りごとに関する調査を行い、除雪やごみ出しを支援してほしいなどの要望をまとめ、2昨年に開催した「支え合い活動や介護予防について考える地域フォーラム」で報告しました。私は当日配布した資料作りのための情報提供やスライドショーの編集をお手伝いしたほか、生活支援コーディネーターとしての活動事例を紹介しました。スライドショーは想像以上に評判がよく、フォーラムに参加していた方から「うちの地域でもやってほしい」と多くの要望を受けました。



映像は、活動の内容を伝える手段として一番わかりやすく、視聴しているみなさんも笑顔になります。「自分も活動してみたい」という方が、一人でも増えるようにと思いを込めて制作した映像は、現在20本を超えました。新しくサロンを結成したいと考えているみなさんにも、ぜひ見ていただきたいです。

人の応援を続けていきたい

退任後は、人の応援ができる仕事をしたいと思っています。私が主役ではなく、なにか頑張っている人を応援する仕事です。協力隊としての経験やみなさんとともに築き上げてきた関係性は私にとって財産であり、時には大きな感動を与えてくれました。退任後も深川のみなさんに関わっていききたいです。



地域おこし協力隊に関する問い合わせは
地域振興課地域振興係
(0266・2276)